

2025



！日本初！

自然エネルギー100%大学

持続可能な社会づくりに貢献するため、再生可能エネルギーの導入促進と
学生による学内省エネ活動の推進を行っています。

環境目標

2018年度

千葉商科大学をネットで
日本初の「RE100大学」にする。

本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と
千葉商科大学の消費電力量を同量にする。

2023年度

千葉商科大学をネットで日本初の
「自然エネルギー100%大学」にする。

本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と
千葉商科大学の消費エネルギー量を同量にする。

達成



自然エネルギー100%大学とは

大学で創るエネルギーと使うエネルギーの量を同じに

創るエネルギー

千葉商科大学メガソーラー
野田発電所等



太陽光発電



使うエネルギー



照明



エアコン



PC



コンロ

etc.

創エネ・省エネによって、2023年度にはガスを含む全てのエネルギーにおいて
日本初の「自然エネルギー100%大学」をめざしています。

千葉商科大学の 環境への取り組み



● 1号館屋上に太陽光発電設備を設置

発電した電力で1号館の消費電力の一部を賄っています。

● CO₂排出量1990年比10%削減を達成

● メガソーラー野田発電所が始動

地球温暖化対策等の環境保全に貢献するため、大学単体では日本一大きいメガソーラー発電所(太陽光パネル10,032枚、パネル容量約2.45MW)を千葉県野田市の本学所有地に建設し、発電した電気を東京電力に売電する「太陽光発電事業」を開始。



● 9月 自然エネルギー100%大学への はじまり

教員有志により共同ゼミを開催し、自然エネルギー100%大学をめざしたいと原科学長(当時:政策情報学部長)がプレスリリースしました。

● 全学的にネット・ゼロ・エネルギー・ キャンパス化をめざして活動を開始

学部プロジェクトから全学的なプロジェクトとして正式に発足。節電週間アクションとして「打ち水で涼しく大作戦」を実施。



● CUCエネルギー株式会社設立

2001年 ● 学生有志によるISO14001認証取得
学生委員会発足

2002年 ● 学校法人千葉学園 環境方針を制定

2003年 ● 千葉県内初、学生主導による
ISO14001認証取得

2007年 ● 全国の大学初の試みとして、
キャンパス内のCO₂排出量を
2010年までに1990年比10%削減する
目標を掲げる

2010年

2012年 ● ISO14001を返上

2013年 ● 「CUC公開講座 in 丸の内」スタート
初年度「持続可能な環境エネルギー政策を考える」

2014年

● 政策情報学部 「省エネ・創エネプロジェクト」を立ち上げ

メガソーラー野田発電所の2014年度の発電実績が学内電力消費量の77%に相当することがわかり、残り23%を省エネ・創エネすることで野田発電所等の発電量と学内の電力消費量を差し引き0にするネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス化への検討を開始しました。



2016年

CUCエネルギー株式会社 CUC-ENERGY

代表取締役社長 原科幸彦 (2018年5月就任)

2016年5月設立。本学に設立された地域エネルギー事業者として、
本学の自然エネルギー100%大学達成に向けたエネルギー・サービス
事業を展開。今後は地域へ広めていくことをめざしています。

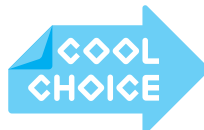
● 4/1 「学長プロジェクト」を立ち上げ

政策情報学部長の原科幸彦教授が学長に就任。ネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス化に向けた取り組みは、本学を地域分散型エネルギー社会形成の核とするため、学長の強いリーダーシップのもと、「学長プロジェクト4:環境・エネルギー」の取り組みとして継承されました。

● 11/13 自然エネルギー100%プラットフォームに登録される

自然エネルギー100%の実現を提唱する世界的なイニシアチブ「自然エネルギー100%プラットフォーム」(運営:CAN-Japan)に教育機関として初めて本学の宣言が登録されました。

● 12/9 環境省「COOL CHOICE LEADERS AWARD」で優秀賞を受賞



日本初

11/13 「自然エネルギー100%大学」に
することを国内外へ
向けて宣言



2017年

学生団体SONE

Student Organization for Natural Energy:
自然エネルギー達成学生機構

学生目線で省エネや地球温暖化防止への取り組みを考え、大学とともに活動する学生団体。企画・実施や大学への提言などを通じて、学内電力消費量の削減をめざしています。



2018年

● 3月 学生団体SONE発足

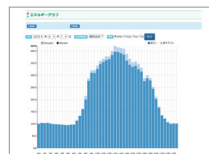
● 2017年8月～2018年2月 メガソーラー野田発電所のパネル増設

太陽光パネル計11,642枚、パネル容量は約2.88MWに。

● 2017年9月～2018年2月 市川キャンパスの照明LED化工事完了

● 2017年9月～2018年2月 EMS(エネルギーマネジメントシステム)導入

エネルギーの見える化により、発電量の管理や電力使用状況を適切に把握・管理することが可能になり、消費エネルギーデータの分析を省エネ活動につなげています。



2018年度環境目標

発電量と消費電力量を同量に
=RE100大学

2019年

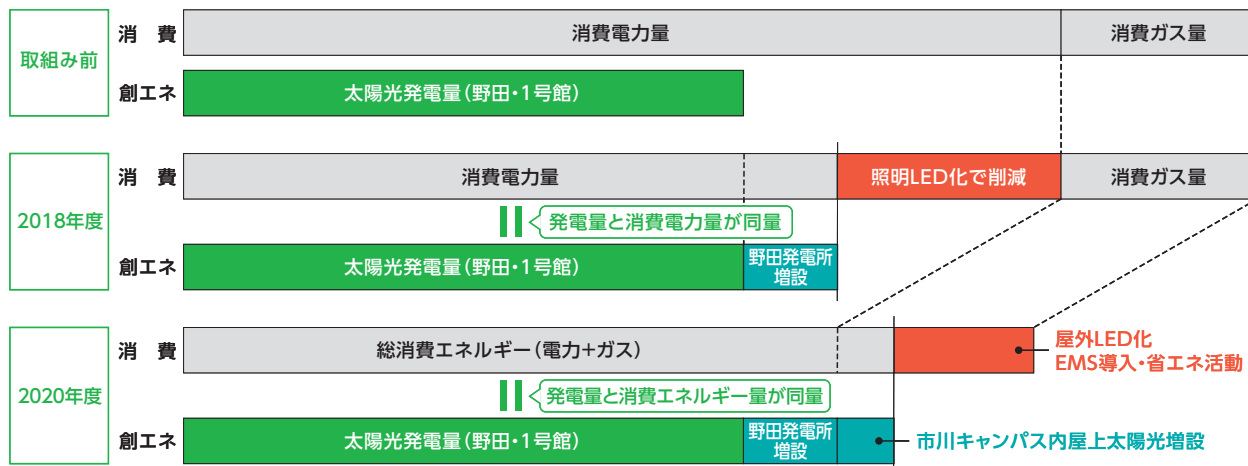
● 2018年10月～2019年2月
市川キャンパスのパネル増設

1号館屋上と合わせ計1,430枚、パネル容量は約460kWに。

2020年度環境目標

発電量と消費エネルギー量を同量に
=自然エネルギー100%大学

達成イメージ



※年度: 4月～翌3月末

2019年からは
さらに多彩な
活動を実施!

2019年
1月

SDGs12: つくる責任・つかう責任
**再エネ発電量と
消費電力を同量に
=RE100大学**

達成

- 市川キャンパス内10棟の屋上に
太陽光パネルを増設し、全量自家消費に



- 2/27 日本初、電力での
「自然エネルギー100%大学」の達成を、
日本記者クラブにて発表



- 5/29 環境省の勝俣孝明政務官が本学を視察
ソーラーシェアリングによるぶどう畑や太陽光パネルなどを
見学されるとともに、学生との意見交換も行われました。



2月

以下、水色の●印のある表記は「学生団体SONE」
または「CUC100ワイン・プロジェクト」の学生活動です。
大学とともに省エネやソーラーシェアリングに取り組む学生が、
積極的な活動を行っています。

3月

- 3/5 CUC100ワイン・プロジェクト
ぶどう作り開始

キャンパス内でソーラーシェアリングをしながらぶどうを育て、市川市産のCUCオリジナルワイン造りをめざす活動がスタート。着方式とぶどう苗の植え付けを行いました。



5月

- 6/29
CUC100ワイン・プロジェクト
ガーデンパーティー開催

クラウドファンディングで運営資金の一部をご支援くださった方々を招き、ぶどう畑の見学やBBQを行いました。



6月

7月

- 7/15~7/19
「打ち水で涼しく大作戦」を実施

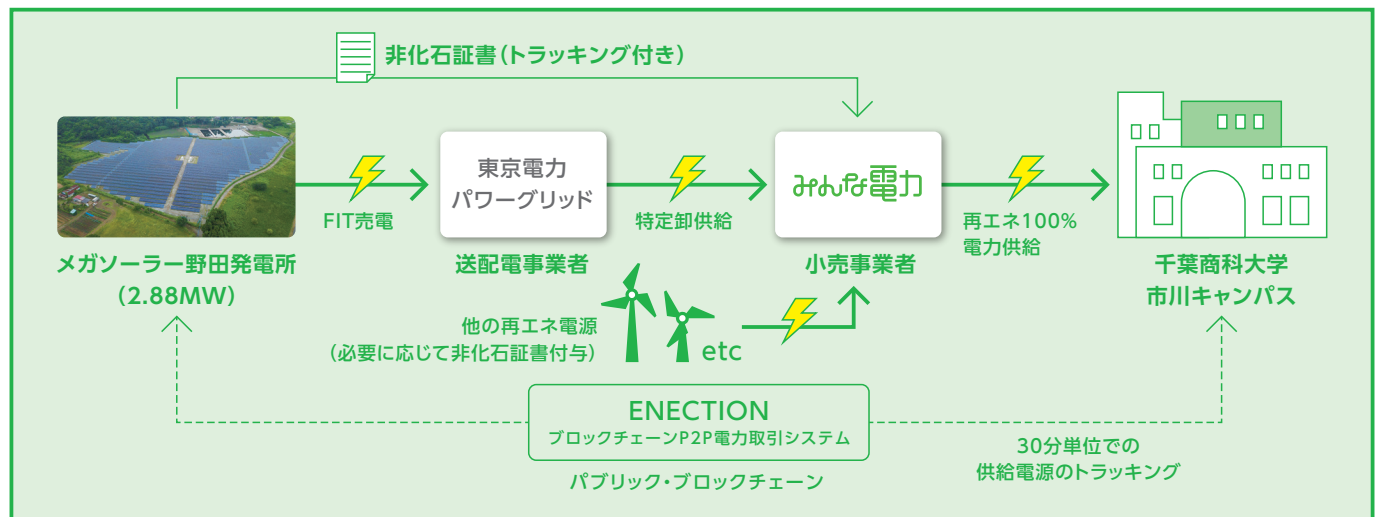
SONEメンバーに加え、公募により集まった40名を超える学生が打ち水スタッフとして参加。打ち水の効果の検証や省エネに関わるアンケートも実施しました。



8月

- 8/1 電力調達も再エネ100%に

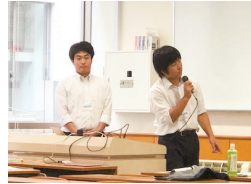
メガソーラー野田発電所の発電分を、売り先のみんな電力から非化石証書を付して買い戻し、
市川キャンパス内の屋上太陽光発電と合わせ電力調達も再エネ100%を達成しました。



・メガソーラー野田発電所のFIT電気を東京電力パワーグリッドを通じて、みんな電力に特定卸供給。
・みんな電力のブロックチェーンP2P電力トレーサビリティシステムを利用することで、メガソーラー野田発電所のFIT電気を、本学市川キャンパスに供給することが証明可能になる。
電力の不足分は、他のFIT電気や再生可能エネルギー電力(風力、バイオマス等)により補充し、さらに、トラッキング付き非化石証書により、再生可能エネルギー利用率100%を実現する。

● 9/13~9/14 環境科学会2019年會に参加

名古屋大学で行われた環境科学会のシンポジウムに SONEが参加し、他大学の学生も交えた総合討論を行いました。



9月



● 10/9 「再エネ100宣言 RE Action」に
大学として初めて参加

自治体、教育機関、医療機関や中小企業などが使用電力の再エネ100%化宣言を表明し、ともに行動を示していくイニシアティブに、大学として初めて参加しました。



10月

● 10/20 「エコメッセ2019 inちば」にSONEが出席



● 10/26 SONEが「CUC公開講座 in 丸の内」で講演



● 激化する気候変動に対する
緊急メッセージ

地球環境が危機的状況であることを認識し、気候変動対策を積極的に研究・実践し、SDGsの目標達成に貢献するメッセージを発出しました。

11月

● 12/2 「第22回令和元年度
地球温暖化防止活動 環境大臣表彰」
環境教育活動部門 受賞

環境教育活動部門において、本学の取り組みが地球温暖化防止に対する功績として評価されました。



令和元年度
地球温暖化防止活動
環境大臣表彰
環境教育活動部門



12月

● 12/2 「今こそ教育現場から気候変動対策を！
RE Action For Teachers」でスピーチ

気候変動問題について教育業界が果たす役割を考えるシンポジウムで、SONEの学生がスピーチを行いました。



● 11/3~11/4

第70回瑞穂祭(学園祭)に参加

学生団体SONEとして初めて学園祭に出店し、薩摩芋スティックの販売と「ソーラー蓄電くん」の宣伝を行いました。



● 11/24

「第16回環境高校生サミット」に
SONEがパネル出席

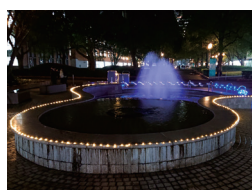


● 12/5~12/7 エコプロ2019に
SONEが出席



● 12/16~12/20 太陽光発電による
学内イルミネーションをSONEが実施

屋間に蓄電した太陽光電気を使い、クリスマス間近の学内を彩りました。



2020年以降も

引き続き
活動中!

● 1/10 2020 Asia-Pacific Triple E Awards 初代「Green University of the Year」 受賞

ACEEU (Accreditation Council for Entrepreneurial and Engaged Universities) がアジア太平洋地域の高等教育機関や個人をたたえる表彰で、環境保護に対する活動が評価されました。



● 1/29 一般財団法人 省エネルギーセンター 「2019年度省エネ大賞 省エネ事例部門審査委員会特別賞」受賞

省エネ活動に取り組んだ功績が認められ、教育機関として2019年度唯一の受賞となりました。



2020年
1月

● 3/23 国際的な「気候非常事態宣言」に 日本の大学として初署名

環境問題に取り組む高等教育機関の国際的な3機関^{*}が発出した気候非常事態宣言の文書 (Higher and Further Education Institutions across the globe declare Climate Emergency) に、日本の大学として初めて署名しました。

^{*}EAUC (Environmental Association for Universities and Colleges (大学環境協会、イギリス)、高等教育気候行動推進団体「Second Nature」(アメリカ)、国連UNEP (United Nations Environment Programme (国連環境計画) の「Youth and Education Alliance」)

3月

6月

● 6/12 令和2年版環境白書・ 循環型社会白書・ 生物多様性白書に 本学の取り組みが掲載



7月

● 7/6 地方創生SDGs官民連携プラットフォームへ加入

内閣府による、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として設置されたプラットフォームに加入しました。

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

● 7/29 環境目標達成年度を2023年度に変更

新型コロナウイルス感染拡大防止の各種対応の結果、キャンパスの消費エネルギー量が大幅に減少。2019年7月～2020年6月の自然エネルギー率 (電気+ガス) が102.9%となり、2020年度環境目標「千葉商科大学をネットで日本初の「自然エネルギー100%大学」にする」を実測上達成しました。しかしながら、これは新型コロナウイルスの流行による異常事態の結果であり、当面はこの状況が続くと予想されることから、合理的で公正な判断を行うため、今後2年間を目標達成の評価から除き、環境目標の達成年度を2020年度から2023年度に変更しました。

● 7/31 株式会社大川印刷主催 「NO MORE! SDGs ウォッシュ vol.4 腕より始めよ。RE100%大学と企業ここにあり」 イベント登壇 (オンライン)

「環境印刷」を推進する株式会社大川印刷が主催するオンラインイベントに参加し、省エネ推進活動など学生が自らの取り組みを語りました。



環境目標

再エネ発電量^{※1}と
消費エネルギー量^{※2}を同量に
=自然エネルギー100%大学
目標達成時期を2020年度→2023年度に

^{※1} 本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量

^{※2} 千葉商科大学の総消費エネルギー量 (電気+ガス)

8/3 RE-User(自然エネルギーユーザー企業ネットワーク)による、 自然エネルギー拡大に向けた提言に全国の学校として初めて賛同

日本が自然エネルギーの電力を利用しやすい国になることをめざした
政府と電気事業者に対する提言に、全国の学校として初めて賛同しました。

8月



- 11/1 エコメッセinちば2020で
開催された
「SDGsユース会議」に
SONEが登壇

- SONEが市川キャンパス内で「仕掛学」を利用した
省エネ行動を誘うプロジェクトを実施



- 1/26 一般財団法人新エネルギー財団
「令和2年度新エネ大賞 導入活動部門
新エネルギー財団会長賞」受賞

先導的な事例として新エ
ネルギー等の普及促進に
大きな役割を果たすもの
として認められました。



新エネ大賞

新エネルギー財団会長賞

自然エネルギー100%大学(電力)の達成

- 3/23 カーボン・ニュートラル達成に向けた
大学等の貢献に係る学長等サミットに登壇
(オンライン)

2050年カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション立
ち上げに向け、参加予定大学の学長等が一堂に会するサミットに
参加しました。



10月

- 10/5 国連大学SDG大学連携プラットフォームへ加入

SDGsを軸に、国内の大学の連携を
強化し、ステークホルダーとの協働
を通して国際社会における日本の
大学の存在感を高め、日本および
世界の持続可能な発展に貢献する
ことをめざすプラットフォームに加
入しました。



11月

- 10月~12月
自然エネルギー100%大学の
実現に向けた連続セミナーを
開催(オンライン)

全国の大学関係者等に向けて、自然エ
ネルギー100%を達成した本学の取り組み
内容や、これまでの経緯、達成のノウハウを
さまざまな角度から公開、共有しました。



12月

- 市川キャンパス内の一部教室の二重窓化による
効果測定調査をSONEが実施



2021年
1月

- 12/13 企画セッション「自然エネルギー100%大学の
多面的な意義」を開催(オンライン)

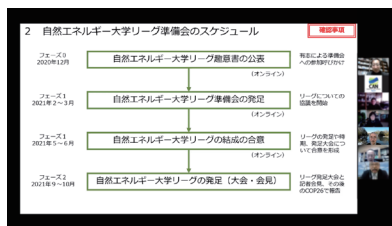
環境情報科学センターが主催した
2020年度環境情報科学研究発表
大会にて、大学のエネルギーを自然
エネルギー化することの意義につい
て多面的に考察しました。



2月

- 2/28 自然エネルギー大学リーグ準備会発足

自然エネルギー100%をめざす大学を増やし、大学活動に伴う環境
負荷を抑制することを目的とした「自然エネルギー大学リーグ」設立の
ため、本学を含め5つの大学の学長が世話人となって第1回準備会を
開催しました。



2021年
4月

● 「パリ協定を実現する野心的な2030年目標を
日本政府に求めるJCIメッセージ」に賛同を表明

本学が2018年9月より参加している気候変動イニシアティブ (JCI: Japan Climate Initiative) は、気候変動対策に積極的な企業や自治体、NGOなどが互いに連携し、取り組みを強化するネットワークです。そのJCIが発表したメッセージに対して、賛同を表明しました。

5月

● SONEが東邦大学と共同で企業へ
環境活動を提案・実施

東邦大学で省エネ活動を推進する学生団体「東邦エコリレーション」と共同し、企業に環境活動を呼びかける「エコルーティングプロジェクト」を実施。株式会社イシダ様へ企画を提案し、環境チェックシートを通じて子どもたちの環境意識を高める活動を実施しました。

6月

● 6/7 原科学長が代表世話人を務める「自然エネルギー大学リーグ」発足

日本国内の大学が集まり、自然エネルギーの活用等を通じて大学活動に伴う環境負荷を抑制し、脱炭素化をめざす「自然エネルギー大学リーグ」を設立しました。



自然エネルギー大学リーグ
RENEWABLE ENERGY UNIVERSITY LEAGUE of JAPAN

自然エネルギー大学リーグ

日本国内の大学組織ならびに大学の教職員・学生および知見を有する関係者等が、知見の共有、ネットワーク化、相互研鑽、人材育成、海外大学との交流を通じて、各大学における自然エネルギーの活用等を促進し、自然エネルギー100%をめざす大学を増やすために、その設立趣意を国内外に広く呼びかけています。

大学リーグ
Webサイト



会 員

キャンパス会員 (10大学)

・足利大学
・上智大学
・千葉商科大学 市川キャンパス
・千葉大学
・東京外国語大学
・長野県立大学
・名古屋大学
・広島大学
・立命館大学
・和洋女子大学

支援団体会員 (8社)

・Envision Digital Japan株式会社
・株式会社E-konzal
・株式会社WELLNEST HOME
・株式会社Yanekara
・清水建設株式会社
・パタゴニア日本支社
・パナソニック株式会社
・みんな電力株式会社

(2022年3月末時点／50音順)

自然エネルギー大学リーグ 設立メンバー (世話人会)

代表世話人

原科幸彦 (千葉商科大学学長)

世話人

岩切正一郎 (国際基督教大学学長)
岸田宏司 (和洋女子大学学長)
高祖敏明 (聖心女子大学学長)
林佳世子 (東京外国語大学学長)

金田一真澄 (長野県立大学学長)
曄道佳明 (上智大学学長)
越智光夫 (広島大学学長)
田中雄二郎 (東京医科歯科大学学長)

● 6/25 原科学長が「国連エネルギー・ハイレベル対話閣僚会合」サイドイベントで基調講演を実施 (オンライン)

「Ministerial Thematic Forums for the High-level Dialogue on Energy」のサイドイベントとして開催された、国連経済社会局による「Accelerating Multi-Stakeholder Action in Japan Towards the Achievement of Net-Zero Emissions and the SDGs」で、原科幸彦学長が「大学からのエネルギー改革: 自然エネルギー大学リーグの設立と2050年脱炭素社会への貢献 (Sustainable Energy Revolution from Universities: An Initiative of the first RE100 University in Japan)」と題した基調講演を行いました。

● 7/5～7/9 SONEが
「打ち水で涼しく大作戦 in 2021」を開催

昔ながらの打ち水で、クーラーに頼らない涼しさを実感し、省エネ意識の醸成と節電行動を促進するイベントを実施しました。

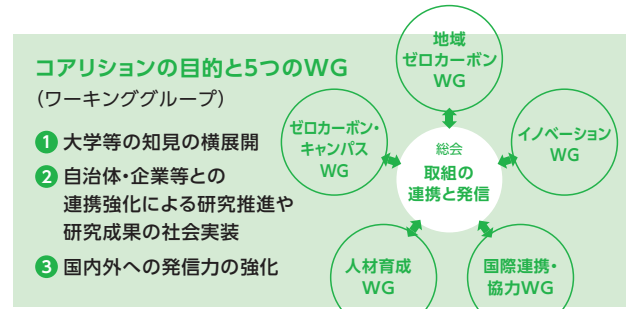


● 7/21 テレビ朝日「報道ステーション」で、
本学の取り組みについて紹介

原科学長がテレビ朝日「報道ステーション」より、本学の取り組みなどについて取材を受けました。

● 7/29 「カーボンニュートラル達成に貢献する
大学等コアリション」に参画

カーボン・ニュートラルの実現に向けた取組を大学等から地域、国、世界へと展開させ、発信を通じて社会の在り方等により良い変化をもたらすことを目的として、文部科学省・環境省・経済産業省が2021年7月に設立したプラットフォームに参画。現在191の大学等が参加しており、千葉商科大学は5つのWG(ワーキンググループ)で構成されるWG別担当委員会において、「ゼロカーボン・キャンパスWG」に所属しています。



7月

● 6/15 平田仁子特別客員准教授が
ゴールドマン環境賞を受賞

石炭火力発電の廃止に取り組む本学の平田仁子特別客員准教授が「環境NGO活動のノーベル賞」とも称されるゴールドマン環境賞を受賞。日本人の受賞者としては23年ぶりの3人目、日本人女性としては初の受賞となります。



7月4日に開催された受賞シンポジウムでは、アル・ゴア米元副大統領やアヒム・シュタイナー国連開発計画総裁、小泉進次郎環境大臣(当時)など、国内外の環境リーダーがビデオメッセージで平田氏の活動を賞賛しました。その後は平田氏が「日本の市民社会とNGO」「気候変動に取り組む上での石炭問題の重要性」という2つのテーマで講演を行いました。さらに有識者を交えたパネルディスカッションも催されました。



8月

● 8/7 「NHK WORLD-JAPAN」で、本学の
自然エネルギー100%大学への取り組みについて紹介

原科学長が「NHK WORLD-JAPAN」より、本学の自然エネルギー100%大学達成までの道のりなどについて取材を受けました。

● 8/12 自然エネルギー大学リーグ
第1回定例セミナー開催(オンライン)

原科学長が「自然エネルギー大学リーグの設立」について講演し、他の登壇者とともに大学における自然エネルギーの活用・脱炭素化等に関する情報共有や意見交換を行いました。



● 8/20 CUC公開講座2021 第4回
「自然エネルギーを通じた地域価値の創造」開催(オンライン)

公開講座2021第4回として、本学が自然エネルギーを通じてどのように地域価値を創造しているか、「組織」「研究」「学生」という3つの側面から報告しました。また、ゲストコメンテーターとしてSDGsに通じた外部有識者をお招きしました。



・特別報告「自然エネルギー大学リーグの設立」

原科幸彦(千葉商科大学学長)

・報告1「自然エネルギーが生み出す地域付加価値とは」

中山琢夫(千葉商科大学基盤教育機構専任講師(当時))

・報告2「千葉商科大学の学生による地域での環境活動」

手嶋進(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 リーダー)

水出翔(千葉商科大学商経学部経済学科 2年(当時)/学生団体SONE)

・パネルディスカッション

星野智子(一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事)

原科幸彦(千葉商科大学学長)

中山琢夫(千葉商科大学基盤教育機構専任講師(当時))

手嶋進(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 リーダー)

水出翔(千葉商科大学商経学部経済学科 2年(当時)/学生団体SONE)

【進行】田中信一郎(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 サブリーダー)

● 9/10~9/11

● SONEが環境科学会で発表(オンライン)

Web開催された環境科学会2021年会の企画シンポジウム「学生によるSDGs活動の地域での認知拡大と深化」において、「遠隔状況下におけるSDGs活動の展開」と題して学生団体SONEが発表しました。

● Race To Zeroのキャンペーン公式パートナー 「Race to Zero Circle」に加入

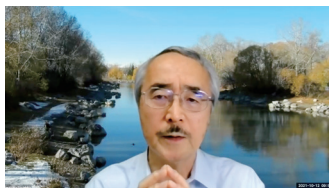
Race To Zeroは、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)事務局が主催する国際キャンペーンで、世界の企業や自治体、投資家、大学などの非政府アクターを対象に、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動を呼びかけるものです。

本学は、気候変動イニシアティブ(JCI)を通じてRace To Zeroのキャンペーン公式パートナーであるJCIのメンバーサークル「Race To Zero Circle(レース・トゥ・ゼロ・サークル)」に加入しました。JCIは世界の脱炭素化に日本から貢献するために活動している団体で、本学も加入しています。

9月

10月

● 10/12 Alliance for Climate Action, "Your Path To Impact in the Race to Zero" (How Universities & Colleges Can Lead on Climate and Transform our Collective Future)にて原科学長が講演



● 10/13 気候変動イニシアティブ 「気候変動アクション日本サミット」にて原科学長が講演



● 10/16~10/17 SONEが「エコメッセinちば2021」にオンラインで参加

千葉県最大の環境活動見本市「エコメッセinちば」にて、SDGsの開発目標12の達成に向けた活動として、自然エネルギー100%大学をめざす大学と学生の取り組みについて発表しました。



● 10/19 「大丸有SDGs ACT5オンラインセミナー 『自分の暮らしやビジネスに再生可能エネルギーを選ぶ』にて、 原科学長が講演

だいまるゆう
大手町・丸の内・有楽町地区の「大丸有エリア」を起点にSDGs達成に向けた活動を推進する「大丸有SDGs ACT5」。丸の内サテライトキャンパスを持つ本学は、大丸有SDGs ACT5実行委員会が主催するオンラインセミナーにおいて、原科学長がプロシューマーとして学内での再生可能エネルギーに関する取り組みの紹介と推進の意義について講演を行いました。

● 11/22

● 愛媛日経懇話会にて「SDGsへの大学の役割と 自然エネルギー大学リーグ」について 原科学長が講演

全国の各地域を代表する経済、産業、行政、学術など各界のリーダーの方々で会員制で集い、自己研鑽する「日経懇話会」。愛媛での例会にて、原科学長が講演を行いました。

● 2021年11月~2022年3月

● 学内建物に蓄電池設備の導入を発表

2022年2月から学内の建物に蓄電池設備を導入し、屋上太陽光発電による電気を災害時等の非常電源として活用できるようになると発表しました。

11月

12月

● 12/8~12/10 「エコプロ2021」に出展

社会課題解決のための製品やサービス、取り組みが集結する「エコプロ」に、学長プロジェクトとして出展。大学の取り組みを発信しました。

● 12/25~12/26 「第7回 全国高校生 環境スピーチコンテスト ～コロナ禍のもとで考える～」を実施 (オンライン)

環境に関心のある高校生を対象に「自然エネルギーと私たちの未来」「SDGsのために、今、私たちができること」という2つのテーマでスピーチ原稿を募集。厳正なる審査にて選ばれた11名が本選に出場し、スピーチ動画およびオンラインでの質疑応答によって受賞者を決定しました。



● 10/19 NHKラジオ「NHKジャーナル」で、 本学の自然エネルギー100%大学への 取り組みについて紹介

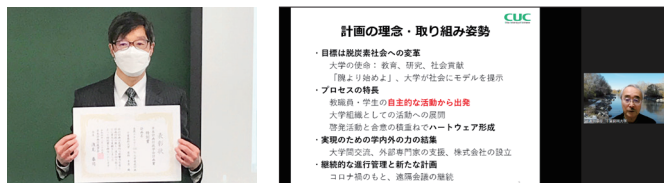
原科学長がNHKラジオ「NHKジャーナル」より、本学の自然エネルギー100%大学達成やSDGsに関する取り組みについて取材を受けました。

● 1/21 CUC公開講座2021第8回
「ゼロカーボン社会を担う人材の育成」開催
(対面+オンライン)

公開講座2021第8回として、国と大学の連携における取り組みや、先進企業における人材育成の取り組み、ならびに本学における人材育成の取り組みについて報告し、参加者を含めたパネルディスカッションで議論を深めました。

● 2/25 一般社団法人 日本計画行政学会「第19回計画賞」特別賞受賞

本学での脱炭素社会実現に向けた自然エネルギー100%の取り組みが先進的であるという点、ハードウェア・ソフトウェア・ハートウェアという3本柱でCUCエネルギー株式会社を設立し、独自の取り組みを行っている点などが評価され、特別賞の受賞となりました。「計画賞」は、日本計画行政学会が環境問題や長寿化、情報化など新たな社会ニーズに応える革新的で先導的な計画を発掘し、これを表彰することを目的として創設された賞です。



2022年
1月

2月

● 12/9
SONEが長野県上田高等学校で開催された
「断熱DIYワークショップ」に参加

環境問題に取り組む上田高校にて、教室の断熱改修ワークショップに参加。高校生が自ら壁や窓の高断熱化に取り組む様子を見て、学生も大学で実施したいと意欲を高めました。



● 12/20～12/24
太陽光発電による学内イルミネーション企画を
SONEが実施

太陽光パネルで発電した電気を蓄電し、クリスマスのイルミネーションを点灯。ツリーは学内のペットボトルを再利用しました。



● 12/29
カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション
「ゼロ・カーボンキャンパス WG」の勉強会にて、
千葉商科大学の事例紹介を実施(オンライン)

3月 ● 3/12「全国学生SDGsフォーラムinちば」で
SONEが発表

NPO法人環境パートナーシップちばと、学生団体おりがみが共催する「全国学生SDGsフォーラムinちば」にSONEが登壇。日頃の活動について報告しました。



● 3/31 学長プロジェクト書籍「SDGsと大学
—自然エネルギー100%大学の挑戦—」発行

2017年にスタートし、教職員と学生が学部を超えて全学的に取り組んできた学長プロジェクト。その研究活動・成果をまとめた書籍を発行しました。



環境目標達成状況

2021年1月～12月の
自然エネルギー率

電気

138.4%

電気・
ガス

112.8%

※自然エネルギー率:創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の各種対応の結果、キャンパスの消費エネルギー量が大幅に減少し、本学の環境目標2が実測上は達成となっています。しかしながら、これは新型コロナウイルスの流行による異常事態の結果であることから、環境目標2の達成年度を2023年度としています。

2022年の 活動はこちらから

2022年
4月

- 4/1 「環境カオリスタ検定公式テキスト」で、
本学の「創エネルギー・省エネルギー」について紹介

原科学長が「創エネルギー・省エネルギー」について本学の事例を紹介し、自然エネルギーの取り入れ方のアドバイスが掲載されました。

- 4/8 ダイヤモンド社「ダイヤモンド・オンライン」で、
気候非常事態宣言 (CED) を発した大学の一校として紹介

- 4/13 日本私立大学協会「教育学術新聞」で、
本学の環境・エネルギー問題への取り組みについて紹介

原科学長による本学の環境・エネルギー問題への取り組み等について、掲載されました。

5月

- 5/30 SONEが
日本テレビ「news every.」で、
本学の再生可能エネルギーの
取り組みについて紹介

原科学長と学生団体SONEが、本学の再生可能エネルギーの取り組みについて紹介するために番組へ出演しました。

6月

- 6/16 自然エネルギー大学リーグ設立
一周年記念セミナーを実施(オンライン)

2021年6月7日に発足した「自然エネルギー大学リーグ」について、設立一周年を記念したセミナーを開催し、代表世話人である原科学長がパネリストとして参加。「総合大学の自然エネルギー化・脱炭素化をどうするか?」についてディスカッションしました。



7月

● 7/7 世界の大学を対象とした国際賞を受賞 国連環境計画 (UNEP) が共催 「International Green Gown Awards 2022 “2030 Climate Action” 部門」で受賞

本学の自然エネルギー100%大学の取り組みが、International Green Gown Awards 2022の「2030 Climate Action部門」で“Winner” (優勝) に選出され、初代受賞者になりました。

この賞は国連環境計画 (UNEP)、コモンウェルス大学協会 (ACU)、フランコフォニー国際機関 (AUF)、国際大学協会 (IAU)、高等教育サステナビリティ・イニシアティブ (HESI) の共催で実施され、全世界の大学の優れた持続可能性社会の実現に向けたアイデアに贈られるものです。International Green Gown Awards 2022では世界19カ国から計56校が6つの部門でファイナリストとして選ばれていますが、日本からの受賞は本学のみとなります。



8/26 CUC公開講座2022第4回

「脱炭素キャンパスをどうやってつくるのか?」 開催(対面+オンライン)

公開講座2022第4回として、外部講師を招き、ドイツのプラスエネルギー小学校の事例と日本全国の大学で連携して取り組んでいる事例を報告。本学で8月31日～9月1日の両日に実施された「断熱改修ワークショップ」についても、企画した学生団体SONEが報告を行いました。



8月

9/8～9/9

環境科学会で発表(対面+オンライン)

環境科学会2022年次会において、原科学長が「自然エネルギー大学リーグによる脱炭素化の推進」について発表し、手嶋進准教授・杉本卓也教授が、企画シンポジウム「PBLとしてのSDGs活動:継続的な活動による能力開発の評価手法の検討」において、「教室断熱化ワークショップの企画運営によるサステナビリティ人材としての育成」について発表。学生団体SONEも断熱改修ワークショップについて発表しました。

9月

9/25 NHK総合「1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために」 で、本学の再生可能エネルギー100%の 取り組みについて紹介

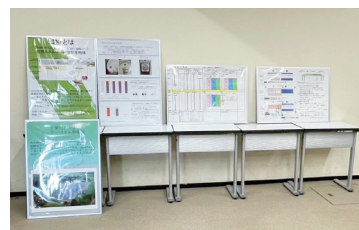
本学の再生可能エネルギー100%の取り組みについて紹介され、原科学長がコメントしました。

10月

10/29～10/30

SONEが第72回瑞穂祭へ出展

本学の学園祭において、断熱改修ワークショップの成果について展示しました。



11月

11/11 関西エリア私立大学法人10大学が本学を視察

「自然エネルギー100%大学」をはじめとする本学の環境問題への取り組みを視察するため、本学も参画している「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に同じく参画している関西エリア私立大学法人の施設部門担当者ら30名が来校しました。当日は原科学長より本学の取り組みについての概要説明があり、具体的な施策を担当教職員が説明。その後、太陽光パネル等など学内施設の見学を実施しました。



8/31～9/1 SONEが主体となって 「断熱改修ワークショップ」を実施

2021年12月に長野県で開催された断熱DIYワークショップを視察したことをきっかけに、本学での断熱実施の可能性を探り、大学へ提案。株式会社エネルギーまちづくり社と本学卒業生が経営する株式会社畔蒜工務店の協力を得て、教室を断熱拐取するワークショップを実現しました。



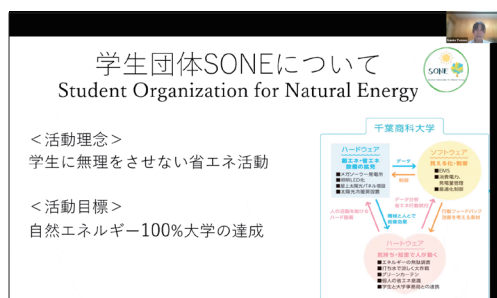
11/13 SONEが「ココカラ未来へ! 地球学校inちば」に出展

体験・発見を通してSDGsが分かる体験型イベントに学生団体SONEが出展。一般社団法人ガールスカウト千葉県連盟が主催するこのイベントは、「明日をつくる 地球をつくる 子どもがつくる」というテーマのもと、未来の担い手であるこどもたちがSDGsについて学び、未来に向けた行動を続けていこうと宣言する『SDGsマイスター』になることをめざすもので、学生は子どもたちの応援団として参加しました。



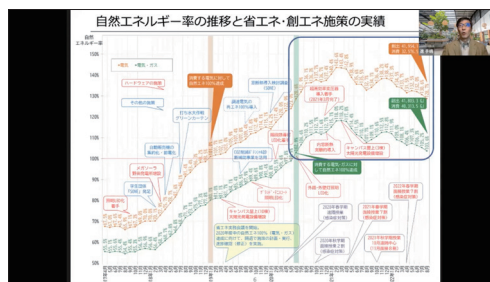
● 11/19 SONEが「NPO法人いちかわ電力コミュニティ 第2回オンラインセミナー」で講演

『自然エネルギー100%大学』のトップランナーとして、本学が実施している活動について、学生団体SONEが講師を務めました。



● 11/25 「リネットちば第8回オンライン勉強会」で講演

『自然エネルギー100%大学への取り組み～自然エネルギー大学リーグへ～』をテーマに、手嶋進准教授が講演しました。



11月

12月

● 12/1～12/2

「第8回全国高校生 環境スピーチコンテスト」を実施

環境問題に関心のある高校生を対象に、「自然エネルギーと私たちの未来」[SDGsのために、今、私たちができること]という2つのテーマでスピーチ原稿を募集。75件の応募があり、厳正なる審査にて選ばれた11名が本選に出場しました。本選ではスピーチ動画およびオンラインでの質疑応答によって受賞者を決定しました。



● 12/7～12/9 SONEが「エコプロ2022」に出展

東京ビッグサイトにて開催されたエコプロ2022に参加し、これまでの活動内容や成果についてポスター展示を行いました。

● 12/19～12/23 SONEが太陽光発電による学内イルミネーション企画を実施

太陽光パネルで発電した電気を蓄電池、クリスマスのイルミネーションを企画・実施しました。



● 12/27 SONEが「千葉県環境基本計画普及啓発セミナー」で発表

千葉県環境政策課主催のセミナー「学生×SDGs～持続可能な地球の未来のために、今できること～」において、学生団体SONEが「省エネと快適さの両立-InSONEtion(教室断熱化ワークショップ)の実施-」について発表し、県内の高校生や他大学の学生との意見交換を行いました。

2023年
1月

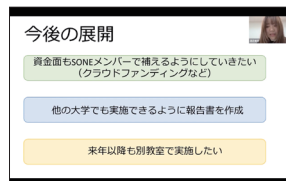
● 1/11 SONEがサウジアラビアの大学へ向けた省エネセミナーに参加

Workshop on Energy Efficiency at University in the Kingdom of Saudi Arabiaにおいて、「Making a 100% renewable energy university」のプレゼンテーションを学長ゼミの学生とともに学生団体SONEが英語で行いました。



● 1/31 SONEが「気候アクションワークショップ」で、断熱改修ワークショップについて発表(オンライン)

気候ネットワークが主催する「気候アクションワークショップ～気候危機を止めるために、私たちにできることを考えよう～」の第2回「学校断熱どうやったらできるの?」において、学生団体SONEが本学で実施した断熱の意義や断熱改修ワークショップの手法について発表しました。



● 2/6 SONEが「千葉商科大学×NHK SDGsインタラクティブ」で発表

学長プロジェクトを中心にSDGsを推進する本学と、NHK・SDGsキャンペーンの一環としてNHK千葉放送局が共催したイベントにSONEが登場。イベントは本学の学生がSDGsについて考え行動するきっかけをつくることを目的としたもので、SONEは教室の断熱改修などこれまでの成果を発表しました。



● 2/22 SONEがエコルーティングプロジェクトでの成果発表会を実施(オンライン)

株式会社イシドの生徒に向けて、東邦大学(東邦ecolution)の学生とともに、SDGsすごろくを作成したプロジェクトの成果について発表しました。

● 2/22 SONEがTOKYO MX「堀潤モーニングFLAG」にて、本学の自然エネルギー100%大学への取り組みを紹介

本学の自然エネルギー100%大学への取り組みについて、原科学長および学生団体SONEが取材を受けました。

2月

3月

● 1/23 SONEがTBSテレビ「ふるさとの未来」で活動を紹介

学生団体SONEがこれまで実施してきた取り組みについて取材を受けました。

● 1/27 CUC公開講座2022第10回「脱炭素キャンパスをこうやってつくっている」開催(対面+オンライン)

公開講座2022第10回として、外部講師を招き、断熱改修ワークショップの考え方や全国の事例、気候変動に対する国際的な取り組みの最前線について報告しました。また、学生団体SONEも、本学で8月31日～9月1日の両日に実施した断熱改修ワークショップの事例について報告しました。



● 3/20～3/21 SONEが「野辺山営農ソーラー別荘活用プロジェクト～地域の拠点作りワークショップ～」に参加

全国ご当地エネルギー協会および環境エネルギー政策研究所が主催したワークショップに参加し、営農型ソーラー発電所とその横にある別荘建物を地域の拠点としてどのように地域の方たちと協働・活用するかについて議論しました。



● 3/25 SONEが「2022年度次世代SDGs実践コンテスト」で優秀賞受賞

環境自治体会議環境政策研究所サステナビリティ人材開発センターとソーシャルアクションカンパニー株式会社が共催した「次世代SDGs実践コンテスト」で、学生団体SONEが「断熱ワークショップの企画運営」について発表し、優秀賞を受賞しました。



環境目標達成状況

2022年1月～12月の
自然エネルギー率

電気

124.5%

電気・
ガス

99.9%

※自然エネルギー率:創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)

2023年の 活動はこちらから

● 5/20 日本技術士会 千葉県支部主催CPDにて 原科学長が講演

原科学長が、「SDGs大学の取り組み (RE100%大学も含む)」についてオンラインにて講演しました。

● 6/26 大韓民国京畿道建設本部 京畿道融合タウン推進団が 本学を視察

韓国大使館を通じ、京畿道建設本部所属職員がRE100推進に関連して多様な資料調査と情報収集のため、本学の再生エネルギー適用事例など、学内施設を見学しました。



2023年
4月

● 4/1 SONEが「地球温暖化について考える親子イベント」を開催

SONEが市川市内の小学4年生以上の児童とその保護者を対象とした「地球温暖化について考える親子イベント」を開催しました。日本ではじめて電力での「自然エネルギー100%大学」を達成した本学で、省エネ啓発活動に取り組むSONEが講師となり、温暖化の原因や地球環境への影響について説明しました。

また、昨年夏にSONEが実施した教室の断熱化を例に、省エネ対策には断熱も有効であることを解説し、自宅のできる断熱DIYについて紹介しました。



● 4/19 産経新聞(朝刊)で、本学の 「自然エネルギー100%大学」への取り組みについて紹介

● 6/24~6/25 朝日新聞社主催「朝日地球会議」に伴うイベントとして ハケ岳エコハウス「ほくほく」をSONEが訪問

ほくほくプロジェクトの取り組みからエコハウスの仕組みについて学び、その学びを活かして実行(エコリノベーション)および発信することを目的とし、SONEと他大学生も含め7名の学生が訪問しました。



● 6/24 国際影響評価学会 (IAIA) 日本支部と共催シンポジウム 「神宮外苑再開発計画はSDGsに合うかー環境アセスメントのあり方を問うー」を開催

本シンポジウムでは、中央大学研究開発機構教授/東京大学名誉教授の石川幹子氏より、「神宮外苑の価値と環境アセスメント・データの信頼性」について講演いただき、原科学長からは、「環境アセスメントSDGs—神宮外苑再開発計画アセスを事例に—」について講演しました。

シンポジウム後半では、IAIA前会長/環境・人権問題専門家であるGabriela Factor氏と、経営コンサルタント/神宮外苑問題の署名活動代表のRochelle Kopp氏からもコメントをいただき、対面とオンラインで参加した150名近くが活発に意見を交わしました。



- 7/5 教育学術新聞で、
SONEが「自然エネルギー100%大学へ」をめざし活動していること、
2022年に断熱改修ワークショップを実施したことについて紹介

● 7/17～7/20 「省エネweek打ち水」を実施

「省エネ」について全学的に意識を高め、取り組みとして浸透させることを目的としたイベントを実施し、原科学長を中心に多くの学生・教職員が参加しました。



7月

8月

● 8/25 CUC公開講座2023第4回

「大学の視点から考える地域のカーボンニュートラル」を開催

外部講師を招き、大学と地域・自治体における連携についてご報告いただきました。またSONEからも「学生の視点から考えるカーボンニュートラル」について発表しました。



● 9/14～9/15

大阪経済法科大学が本学を訪問

本学の自然エネルギー活用における取り組みや、野田発電所への視察のため、大阪経済法科大学職員が2日間にわたり本学を訪れました。1日目は担当教職員、学生団体SONEと共に野田発電所を視察。2日目は太陽光パネルなど学内施設を見学し、意見交換会を実施しました。



9月

● 9/15 自然エネルギー大学リーグ 2023年度総会・特別フォーラム開催

代表世話人である原科学長を中心に、本学にて対面で開催されました。市川市長、文部科学省、環境省など学内外から約150名の関係者・専門家・学生が参加し、東京大学未来ビジョン研究センター教授／環境省中央環境審議会会長である高村ゆかり氏による基調講演やエクスカーション、分科会、交流会などを実施しました。



● 8/30～8/31 SONEが断熱改修ワークショップを実施

昨年度に引き続き、本学OBが会長である畔蕨工務店の協力を得て、SONEが414教室での断熱改修ワークショップを2日間にわたり実施しました。学外からは東邦大学2名、名古屋市立大学2名の学生も参加し、ワークショップ実施前にはオンラインにて断熱の講義や説明会などを行いました。



10/3 気候変動アクション日本サミット (JCAS2023)に原科学長が登壇

脱炭素の加速、共創・協働、リーダーシップの重要性をテーマに、各セクターの取り組みをリードし、政策関与にも積極的に取り組むJCIメンバーのトップが参加する「リーダーズサークル」を新たに立ち上げるキックオフの場として、トップリーダーズセッションに原科学長が登壇しました。

10/9 朝日新聞社主催「朝日地球会議2023」に登壇

パンデミックから4年目となり、新型コロナの感染拡大の勢いは影を潜めたものの、以前に比べると、世界は大きく変化し、分断や格差、不平等、貧困、不景気、右傾化の様相が色濃く、不安や不透明さが増してきたが、共感や協調、希望を忘れずに対話を重ねていくことが、世界や社会の未来への道をひらいていくという趣旨の下、「対話でひらく コロナ後の世界」をテーマとした「朝日地球会議2023」に原科学長と学生団体SONEに登壇しました。当日は、有楽町朝日ホールにて発表を行い、同時に会場よりオンライン配信もされました。



10月

11月

11/10 国際キャンペーン「Race to Zero」計画発表 ～日本私立大学として唯一の参画～

本学は2021年2月に国内の大学として初めて「Race to Zero」に参画し、今回は2022年度までの温室効果ガス削減の取り組み成果を踏まえた目標を公開しました。気候変動や地球温暖化が問題視され、2050年までに温室効果ガス排出量を正味ゼロにする「2050年ネットゼロ」が世界課題となり、日本でも「2050年カーボンニュートラル(ネットゼロ)」を表明し、2030年度において、温室効果ガス46%削減(2013年度比)をめざしています。本学でも、今後も温室効果ガス排出量を削減していくと共に、全学的に省エネ・創エネの推進を進めていきます。

12/8 市川市立八幡小学校(6年生)に 学内の省エネ設備をSONEが案内

SONEが414教室にて断熱に関する解説を行い、学内の太陽光パネルやぶどう畑への見学案内を行いました。



11/27 早稲田大学人間科学学術院が本学を視察

カーボンニュートラルの研究拠点化をめざし、社会学、心理学、生物学と異なる専門分野の教員で構成された研究会に所属する13名が、本学を訪れて取り組みを視察しました。当日は原科学長、手嶋進准教授と意見交換会を行い、学内施設見学も実施しました。

11/30～12/1 「第9回全国高校生環境スピーチコンテスト」を実施

環境問題に取り組む全国の高校生を対象に、まずはスピーチ原稿を募集。43名の高校生から応募があり、厳正なる審査で選ばれた11名が本選に出場しました。本選はオンラインにて実施され、提出されたスピーチ動画や、審査員による質疑応答を含めた内容で受賞者を決定しました。



12/11 「JENESYS2023 日本・ASEAN学生会議」の訪問で 手嶋進准教授が講義

日本ASEAN友好協力50周年認定事業の一環として招待されたASEANおよび東ティモールの大学生・大学院生が20名ほど本学へ視察に訪れました。日本の学生とともに地域に共通する課題について共有し、視察や体験、意見交換を通じて課題解決への意識を高めると同時に、相互理解を深めることで友好協力のネットワークを強化することを目的としたプログラムにて、自然エネルギーへの取り組みについて手嶋進准教授が講義を行い、本学学生と共にグループディスカッション、学内施設見学を実施しました。



1/19 韓国航空大学校が本学を視察

韓国航空大学校で「RE100達成」をテーマにしたプロジェクトに参加している教員1名と学生10名が本学を訪問し、手嶋進准教授が政策等についての講義と学内施設見学を行いました。また、本学学生と参加者によるグループディスカッションも実施し、交流を深めました。



1/26 CUC公開講座2023第9回 「地域の視点から考える大学のカーボンニュートラル」を開催

千葉商科大学の脱炭素キャンパスづくりの最新の取り組みを報告するとともに、大学と地域で連携して進める脱炭素の取り組みについて、広く大学・自治体関係者に共有しました。パネルディスカッションでもさまざまな意見や質問があり、活発な意見交換の場となりました。



1/15 原科学長が認定授与式に出席

千葉県匝瑳市の「脱炭素先行地域」申請における共同提案者として、環境大臣より認定を授与される認定授与式に原科学長が出席しました。



2024年
1月

2月

2/17 「ソーラシェアリングフェスティバル & オリジナルワイン第2弾発表会」開催

原科学長をはじめとする講演、各地域のソーラシェアの状況についての発表、その他技術的課題や環境面・政策面など、多彩なシンポジウムを本学にて開催しました。ロビーで行われた参加団体の出店(出展)、懇親会にも大勢の方が参加し、大盛会となりました。また、当日は多くの学生がボランティア支援として参加し、学内ツアーや販売、千葉商科大学のSDGsへの取り組みの説明など、シンポジウム成功の大きな力となりました。



2/27 福島県立小高産業技術 高等学校が本学を訪問

文部科学省指定「マイスターハイスクール事業」の一つとして、今年度までの3年間「再生可能エネルギー分野」に取り組んでこられた福島県の高校から、「マイスターハイスクール事業」が終了する次年度以降も「再エネ」「脱炭素社会」「デコ活」教育を継続したいと考え、本学の「自然エネルギー100%大学」の取り組みについて説明および学内施設見学の依頼があり、手嶋進准教授より実施されました。

2/28 高崎経済大学が本学を訪問

大学の脱炭素化に関する実地調査のため、高崎経済大学より協力依頼があり、本学へ視察に訪れました。当日は、学内の実施主体や体制、学生や地域など大学に関連する人や団体などに及ぼした効果など、大学という立場での「自然エネルギー100%大学」についてや、脱炭素にかかわる研究支援策などの質問等について、手嶋進准教授や担当職員より説明があり、学内施設見学も実施しました。

3月

3/6~3/7 SONEが フィールドワーク合宿を 実施

春休みを利用し、しずおか未来エネルギー株式会社・鈴廣かまぼこ株式会社・合同会社小田原かなごとファームを訪問。自然エネルギー事業に取り組むきっかけや、ソーラシェアリング、地域住民とのかかわりなどについて、実際の企業や現場へ赴くことで、具体的な活動を直接学ぶことができました。



環境目標達成状況

2023年1月~12月の
自然エネルギー率

電気

120.7%

電気・
ガス

96.3%

※自然エネルギー率：創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)

2024年
4月

● 4/2 千葉商科大学 大木戸ソーラー発電所を竣工

千葉商科大学は、農地を活用した営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を導入した『千葉商科大学大木戸ソーラー発電所』を4月2日に竣工しました。本発電所では太陽光パネル下部で農作物を育てるだけでなく、学生と地域の方が交流する場として活用することも目的としています。



5月

● 5/25 サツマイモの植え付けイベントを実施

4月に竣工した大木戸ソーラー発電所にて、市川市内の小学生と一緒にサツマイモの植え付けを行いました。



● 4/5 台湾の国立大学が本学を訪問

An-Ting Cheng先生が本学を訪問され、手嶋准教授との意見交換及び学内施設見学を行いました。

6月

● 6/21 ゼロカーボン・キャンパスWGが開催

京都府立大学にて、ゼロカーボン・キャンパスWGが開催され、本学から原科学長がオンラインで参加し、手嶋准教授は現地にて参加しました。他大学の活動報告では、学生の提案でウォーターサーバーを導入したり、資料を入れるファイルを竹紙で作成するなどの環境配慮がなされた取り組みが多く見られ、とても参考になりました。

7月

● 7/8～7/12 打ち水を実施

SONEによる省エネについて全学的に意識を高める取り組みとして例年実施している打ち水を、お昼休みの時間を利用して行いました。多くの学生・教職員が参加し、盛大なイベントとなりました。



● 7/18 パルシステム生活協同組合連合会「のんびる」に掲載

SONEが行っている取り組みや断熱DIYワークショップが紹介され、あわせて渡辺美月さん、盛川美優さん、エスポジット縁蔵さんのインタビューが掲載されました。

● 7/26 CUC公開講座2024第3回

「ゼロカーボン地域づくりの知見を大学と市民で共有する」を開催

先進的な市民エネルギー事業とゼロカーボンに向けた環境エネルギー教育活動の先進事例を紹介、またSONEによる最新の取り組みなどの活動報告をしました。そのほか基調講演として、しずおか未来エネルギー株式会社代表取締役の服部乃利子氏に登壇いただき、パネルディスカッションでも活発な意見交換ができました。



8月

● 8/30 自然エネルギー大学リーグ 特別フォーラム開催

『大学を核とする地方創生とカーボンニュートラル』をテーマに、自然エネルギー大学リーグ特別フォーラムが長野県立大学で開催されました。本学の参加者、原科学長、手嶋准教授をはじめ、約70名の方が参加されました。長野県知事の阿部守一氏からのビデオメッセージにて長野県ゼロカーボン戦略の説明があり、その他パネルディスカッション、ミニエクスカーション、交流会などが行われました。

● 8/30 BS朝日「つながる絵本」

自然エネルギー100%への取り組みとして、断熱DIYワークショップを行ったSONEと手嶋准教授のインタビューが紹介されました。

9/9～9/10

環境科学会2024年会で報告

企画シンポジウム

自治体との包括協定における環境講座の企画運営 —千葉商科大学における正課講義と 課外活動を活用した多様な学び

杉本教授、手嶋准教授、渡辺美月さん、エスポジット緑蔵さん、篠原遙さんが発表しました。

GHGサプライチェーン排出量の算出と ネットゼロ目標

原科学長、寺野教授、中山准教授、手嶋准教授、大杉氏が発表しました。

9/18～9/19 SONEによるフィールドワーク調査の実施

SONEが陸前高田しみんエネルギー株式会社、気仙沼地域エネルギー開発株式会社へ赴き、調査を行いました。陸前高田しみんエネルギー株式会社では太陽光発電を中心に展開しているコミュニティバス（電気自動車）事業について、気仙沼地域エネルギー開発株式会社ではバイオマス発電と地域熱供給システムの見学と、同社が中心となり地域で展開している地域通貨について解説を受けました。



9月

10月

10/26 サツマイモの収穫イベントを実施

5月25日に植え付けをしたサツマイモの収穫を、CUCフインプロジェクト100のメンバーとSONEが、市川市の小学生と一緒にイベントを行いました。



11月

11/3 「第10回全国高校生環境スピーチコンテスト」を開催

環境問題に取り組む全国の高校生を対象に、まずはスピーチ要旨を募集し、今回は44名の高校生から応募がありました。そして、その中から厳正なる審査で選ばれた7名の高校生が本選に出場しました。今年度は本選及び表彰式を5年ぶりに対面にて実施し、当日は本学大学祭（瑞穂祭）も開催しており、来校した高校生の皆さんに大学の雰囲気も味わっていただきました。また、特別ゲストとして、元内閣総理大臣の小泉純一郎氏、元内閣官房長官の中川秀直氏にもご出席いただき、高校生や本学学生を交えての座談会や本選スピーチの講評をいただくなど、貴重な体験と時間を設けることができました。



11/18 追手門学院大学及び 慶応義塾大学が本学を訪問

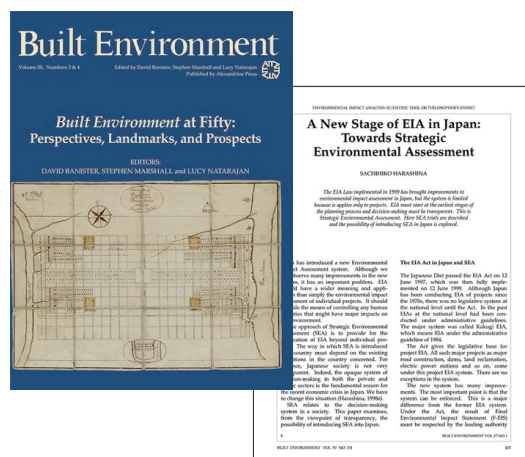
Daigasエナジー株式会社を通しての依頼により、追手門学院大学の財務施設部職員と、慶応義塾大学の教員・学生が本学を訪問しました。慶応義塾大学においては、大木戸ソーラー発電所へ赴き見学もされ、そのあと本学にて合同研修会（手嶋准教授による講義、質疑応答）と学内施設見学を行いました。

12/16 原科学長の論文が世界的な学術雑誌『Built Environment』50周年記念号に再録

原科学長が2001年に発表した論文が、国際的学術雑誌『Built Environment』の50周年記念号に再録されました。日本人では原科学長のみとなります。この記念号では、同誌掲載論文の1,000本以上の中から選ばれた14本が収録されています。

再録された論文「A New Stage of EIA in Japan -Strategic Environmental Assessment-」は、日本における戦略的環境アセスメント(SEA)の導入を展望したもので、当時の国内外の状況や今後の可能性を詳細に論じた先駆的な研究です。EIAとは現在行われている通常的环境アセスメントのことで、SEAは新しいアセスメントです。この論文は日本の環境政策における重要な一歩を示し、SEAは現在新たに注目されています。

『Built Environment』誌は環境分野の研究において伝統ある学術雑誌で、関連分野における掲載論文の引用数などでも一定の評価と影響力を持っています。50周年記念号に収録された14本の論文はSustainability and the Environment, Urban Design, Inclusion, The Compact City, Technology, Regional Perspective, Transportの7つの分野に分類されており、原科学長の論文は「Sustainability and the Environment」の分野で選ばれました。



12月

1/15 「JENESYS 2024 日本・ASEAN学生会議」が本学を訪問

2025年
1月

本プログラムは、日本政府が推進する国際交流事業で、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来、各界にて活躍が期待される優秀な人材を対象とし、青少年交流を通じ、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策に関する理解促進を図るとともに、外交基盤を拡充し、さらに、日本の外交姿勢や日本の魅力等を積極的に発信してもらうことなどを目的としています。本学への訪問は3回目となり、ASEAN10か国、東ティモール各国の学生34名の学生が来校し、手嶋准教授による「自然エネルギー100%への取り組み」をテーマにした講義やグループディスカッション、学内施設見学などを行いました。当日は、高橋百合子名誉教授が担当している学長ゼミ生やSONEのメンバーなど、本学学生との交流も深めることができました。



● 2/5 2024年度 学長プロジェクト・フォーラムを開催

SD研修会として、2024年度における各プロジェクトの活動報告を、担当教員とプロジェクト学生が登壇し発表しました。また、今年度で学長プロジェクトとしての活動が終了となることから、後半のパネルディスカッションでは原科学長と共に、各プロジェクトリーダーである寺野教授、橋本教授、吉竹教授、手嶋准教授が登壇し、今井副学長のファシリテーターにて行いました。

会場で参加していた教職員や学生、またオンライン参加者との質疑応答も含め、活発な意見が飛び交い、2017年度より原科学長の掲げる持続可能な社会づくりに貢献するという基本戦略のもと、8年間続いた学長プロジェクトの集大成として、とても充実したフォーラムとなりました。



● 2/7 狛江市エネルギーワーキングから視察訪問

狛江市の環境基本計画に定めている目標達成に向けた取り組みを、市民の参加協働により推進するために設置されたワーキンググループ17名が視察のため本学を訪問しました。本学の再エネ導入や省エネなど、エネルギー問題で先進的な取り組みを行っている自然エネルギー100%大学として課題としていること、内外の反響、今後の取り組み等について、手嶋准教授の講義や意見交換会、あわせて学内施設見学などを行いました。また、学生食堂「The University DINING」でのランチも楽しんでいただきました。



● 2/18 公立大学法人北九州市立大学が本学を訪問

全学一体となってSDGs推進に関する組織作り、情報集約方法、学内外への情報発信、中期経営計画等での位置づけ、教職員学生への啓発、環境目標(RE100、Race to Zero)、再生可能エネルギー導入における意思決定、コストなど、本学の組織の在り方についてヒアリング及び学内施設見学を行いました。当日は、原科学長、手嶋准教授、担当職員が参加し、活発な意見交換をすることができました。

2月

● 3/6~3/7 教室快適化DIYワークショップを実施

「自然エネルギー100%大学」プロジェクトとして、SONEが第3回断熱DIYワークショップを行いました。このワークショップは、SDGsの目標4番、7番、11番12番、13番の解決に向けて実施しています。今回は2号館2階にある学生談話室を断熱化しました。第1回、第2回実施のときからご協力いただいている畔蒜工務店様やCUCサポート株式会社、施設環境課職員と共に取り組み、充実したワークショップとなりました。また、当日は「ゼロエミッションを実現する会」から16名の訪問があり、ワークショップの現場では、SONEが説明やアテンドを行いました。学生たちが自ら企画・運営を行い、とても達成感のあるイベントとなりました。



3月

環境目標達成状況

2024年1月~12月の
自然エネルギー率

電気

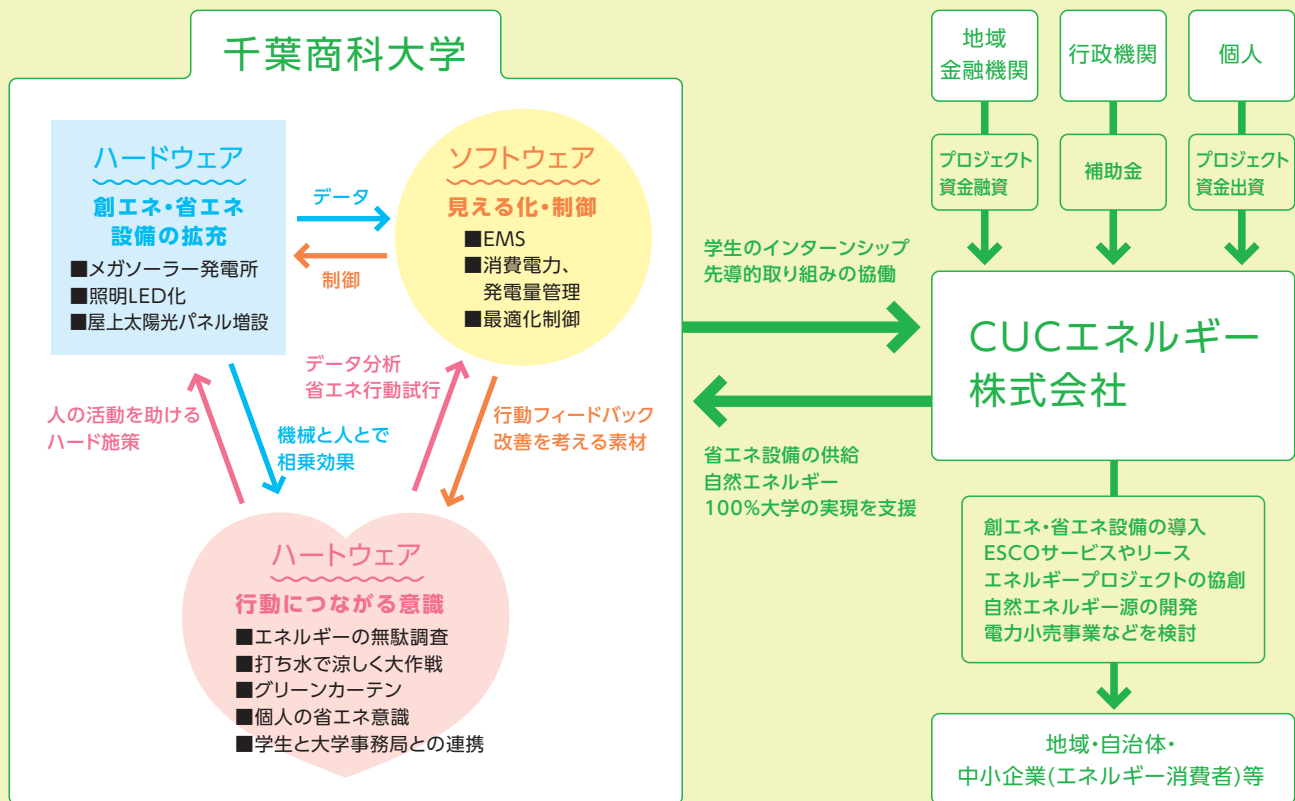
115.2%

電気・
ガス

90.8%

※自然エネルギー率：創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)

環境目標の実現に向けて、本学がこれまで取り組んできた地球温暖化対策活動を軸として、ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェアという3つの柱で、全学的なスキームを展開して取り組んでいます。また、この取り組みを核に、エネルギーの地産地消のモデルとして、地域分散型エネルギー社会の形成を支援することをめざしています。



地域分散型エネルギー社会への転換

本学の取り組む「自然エネルギー100%大学」は、自然エネルギーだけでカバーできる実例として、「まず、隼より始めよ」という考えで取り組んでいます。いわばRE100の大学版として、日本国内の大学では初の試みです。私たちの規模のケースをモデルに多くの大学や中小企業が、事業所単位で目標を立て、RE100をめざし、エネルギー地産地消型の社会へ転換されれば、雇用も生まれ、産業構造も変わります。民間の力、商いの力で、地域分散型のエネルギーを広げ、持続可能な社会へと変えていくことこそが日本の将来を切り拓くことになると思います。

千葉商科大学 第8代学長 原科幸彦



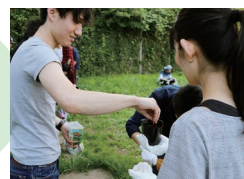
PROFILE ———
はらしな・さちひこ／1946年生まれ。東京工業大学理工学部卒。同大学院理工学研究科博士課程修了。東京工業大学工学部助教授・教授などを経て、同大名誉教授。2012年に本学に着任。政策情報学部長を経て、2017年3月、学長に就任。社会工学が専門で、参加と合意形成研究、環境アセスメント研究の第一人者として国内外で広く知られている。

千葉商科大学はこれからも、学生・教職員が一体となって
省エネ意識を醸成する活動に取り組んでいきます。

断熱で
省エネな
教室に



グリーン
カーテン



2025年3月発行